

# ICTを活用した生徒指導

## ～規範意識をはぐくむ段階的指導～

学校名 熊本県立鹿本商工高等学校

所在地 〒861-0304  
熊本県山鹿市鹿本町御宇田312番地

ホームページ  
アドレス <http://www.higo.ed.jp/sh/kasyoko/>

### 1. はじめに（研究の背景）

今日、社会や家庭環境の変化に伴い生徒指導に関わる課題は多様化、複雑化し、問題行動等の未然防止やその解決、児童生徒の健全育成を図るためには、生徒一人ひとりの規範意識を醸成し、社会的自立を進めていくことが重要な課題となっている。また、平成18年の教育基本法改正によっても、学校では規律を重んじ、学校、家庭、地域社会が相互に連携していく教育理念が示され、規範意識を醸成する生徒指導体制が求められるようになった。

熊本県立鹿本商工高等学校（以下、本校）においても、様々な家庭環境の中で、生徒、保護者ともに多様な価値観が存在し、その環境の中で学校生活ひいては卒業後の社会人生活で必要となる「規律を守るための指導」を常に行ってきた。しかしながら、生徒と向き合い、徹底した対話を中心とした指導だけでなく、新たな指導方法を取り入れながら改善を促す機会として、今回の研究テーマとなっている段階的指導を行うこととなった。

段階的指導は生徒一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながらも、同時に公共の精神や社会規範を尊重する意識や態度に基づき、自主的・自律的に判断、行動し、積極的に自己を生かすことができるような社会的資質や能力・態度を育成していくための援助・指導方法の一つである。この公共の精神や社会規範との関連において自己実現を図れるような自己指導力を身に付ける観点から、指導に当たっては保護者や地域住民、教職員の間で生徒指導についての共通理解を図りながら実施することが重要となる。具体的には本指導方法については保護者や地域へ積極的に公開し、協力して「毅然とした粘り強い生徒指導」を推進していく必要がある。また、段階的指導においては指導基準を明確化し公開することで透明性を高め、教職員が曖昧な態度で指導することなく、足並みをそろえて「いけないことはいけない」と繰り返し粘り強い指導を行うと同時に、生徒の内面の問題に真剣に向き合い、理解しようとする姿勢が失われてはいけない。このような、バランスを重視した粘り強い指導を通して、生徒が規範を守るべき理由を自ら理解し、規範意識を内面化していくことにつなげることが重要である。

### 2. 研究の目的

本校における段階的指導は平成21年9月に開始して以降、生徒指導の大きな柱として機能す

るよう、全職員での「曖昧さ」のない指導に向けて、その運用方法を適宜改善しながら指導を進めてきた。現在の本校の段階的指導は以下のような特徴がある。

【本校の段階的指導の特徴】

- ・段階的指導の最終段階である特別指導まで23回という累積指導回数を設定している。
- ・指導対象となる項目は多岐にわたるが、全て1回としてカウントする。
- ・各段階での指導担当者と指導内容は以下の通りである。

毎日	5	10	12	15	17	20	23
担任	学年主任	学科主任	生徒部長	教頭	生徒部長	校長	
口頭指導	反省文	反省文	口頭指導	反省文 保護者召還	口頭指導	反省文 保護者召還	特別指導

- ・各段階の指導内容は、反省文を記入し（生徒部長の指導では反省文は省略）、指導担当の先生の元で顔を合わせての個別指導を受ける。
- ・反省文は1枚のA4用紙を両面で用い、5、10、15、20回目の4回分の反省文が書けるように片面を2等分し、23回までの指導を1つの用紙で振り返られるようにしている。
- ・累積指導回数は愛校作業（清掃作業）を行うことで1回分を減らすことができる。
- ・愛校作業は毎朝実施、また週に1回（原則水曜日）は放課後も実施している。
- ・30日間指導を受けなかった場合、それまでの累積がリセットされ累積0となる。

本研究では、この鹿本商工版の段階的指導をスムーズに機能させるため、ICT面でのサポートを推進すると同時にネットワーク化を行い、全教職員の端末から生徒の情報を把握し、いつでも指導に生かせる環境作りを実現した。また、教師が生徒状況を容易に把握できるようになったことを踏まえ、叱るばかりではなく、認め、褒め、励まし、伸ばすために今後求められる表示方法の改善手法にも言及し、指導に役立つICTによるサポート方法を考察した。

3. 研究方法 -ICTシステムを活用した段階的指導-

本校では平成17年にイエローカードという名称で段階的指導に一度取り組んだ経緯がある。しかしながら、その時には全職員での取り組みとしてうまく機能できなかったと同時に、Microsoft Excel（以下、Excel）を用いた集約、集計、状況把握がスムーズな運用に至らず、段階的指導を中止せざるを得なくなった。その時の反省を含め、今回の段階的指導実施においては、以下の点に注意しながら実行に移した。

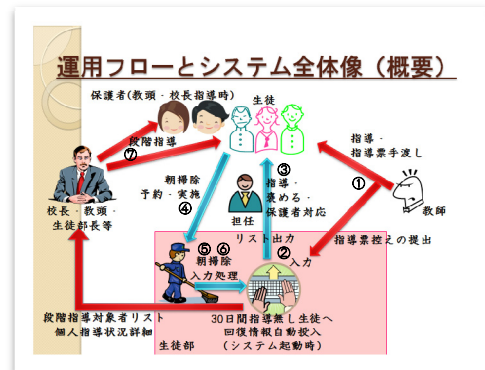
- ・本指導方法の導入時は、生徒ならびに保護者へ十分な説明の機会を設け、生徒と教職員が一斉に意識を共有した形で指導を開始した。特に教職員の意識が一つにまとまっていないと本指導方法は綻びが出てくるため、職員会議を同時に開催し意識の共有を図った。
- ・「システム化＝機械的な生徒指導」とならない（そう思われることもない）よう、指導用の用紙である「指導票」（複写式）発行の際には生徒との対話をしっかりと行い、各段階での指導においても対話を重視して、本指導が自己の振り返りの材料であり、自分自身を客観的に見るための道具であることを生徒に自覚させるよう心掛けた。
- ・誰でも入力しやすい画面（フォーム）が作りやすく、指導状況の一覧表（レポート）の出

力が容易な Microsoft Access（以下、Access）で ICT システムを準備した。

- ・指導票による指導履歴を生徒指導に生かしたいという希望があった（例えば、ある条件に該当する生徒を拾い出して欲しいというような要望があった）際には、できるだけ早期に希望するデータ抽出ができるよう、システムの機能追加を随時行った。
- ・本研究の後半では、生徒部内だけで実施していた入出力機能のうち、閲覧のみの出力機能を全教職員に開放するため、Access 上のデータベースをデータベースサーバへ移行し、ネットワーク化を図ることでより一層の全教職員での指導体制を強化した。

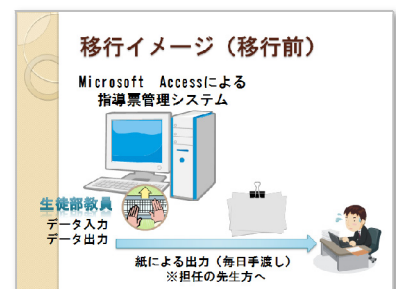
今回取り組んだ段階的指導のおおまかな運用フローは以下の通りである。

- ① 指導の実施(生徒へ手渡し、複写を生徒部へ提出)
- ② 生徒部で指導情報を入力しリストを担当へ配布
- ③ 担任がリストを見てクラスの生徒へ適切に指導
- ④ 愛校作業（朝掃除等）に参加する生徒は生徒部へ予約申請を行う
- ⑤ 生徒部で作業予約を受け付け、予約者一覧を元に愛校作業を実施
- ⑥ 愛校作業実施生徒に回復情報投入
- ⑦ 段階指導に該当した場合は、指導担当教員の下で、時には保護者同伴で指導を受ける。



また、研究前半に Access で構築したシステムを、研究後半にネットワーク化を実現した部分については、右図のような移行イメージで実施した。

ネットワーク化の実現においては、Web サーバを立てて Web ブラウザからアクセスするなどの手法が一般的である。しかし、Access で構築されたシステムを可能な限り短期間に、データ、入出カインターフェースともに移行するには、Microsoft 社の提供するアップサイジングウィザードという移行ツールを利用し、Microsoft SQL Server（以下、SQL Server）へ移行することが最良と判断し、このような形態でネットワーク化を実現した。各クライアントからは、Access を用いて SQL Server にアクセスし、閲覧権限での限られた機能を利用できるようにした（全教職員に向け機能提供した範囲については、第 7 章を参照）。



#### 4. 研究の成果と今後の課題

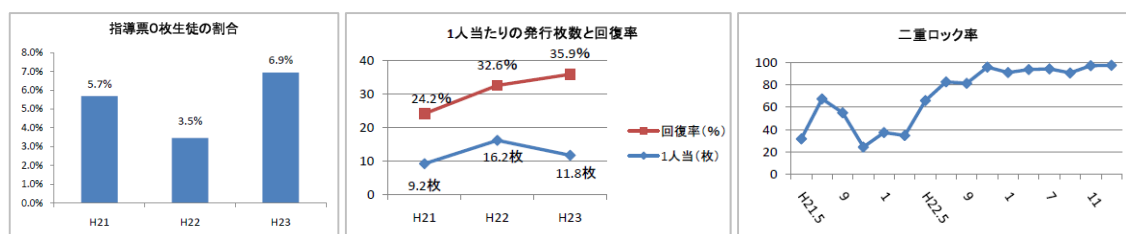
##### 4. 1. 本研究の成果

今回の研究を通して得られた主な成果は以下の通りである。

【生徒自身の変革】

- ・生徒たちが整容面に気を付けたり、提出物の期限厳守や課外への参加に積極的になるなど、自らきちんとしていこうとする習慣が芽生えた。

以下のグラフは「指導票を1年間で1枚ももらわなかった生徒の割合」「1人当たりの指導票発行枚数とそれに対する回復作業実施率」「通学自転車の二重ロック率の推移」である。指導票0枚の割合は平成21年度において高く感じられるが、平成21年度は段階的指導を開始した年度であり、実施期間が9月からと短いため割合が高くなっている。実際には年を追う毎に、指導票を1枚ももらわない生徒の割合は高くなっている。また、同様に1人当たりの指導票発行枚数も平成21年度の実施期間の短さを考慮すると、指導票をもらう枚数は減少傾向にあり、また、もらってしまった場合でも、愛校作業を通じて回復しようとする行動に移す割合が年々高まっている。更には自己指導力の定着を見る指標として有意な自転車通学生の二重ロック実施率は、以前は50%前後を推移していたが、段階的指導を併用しながら指導を進めた結果、100台を超える自転車数に対し100%を達成する日も出てくるようになり、非常に高い二重ロック実施率を推移している。



【指導にあたる教職員にとってのメリット】

- ・全職員が誰でも生徒指導に関われる仕組みが整い、指導方法の明確化も図れた。
- ・授業担当の生徒や、掃除場所や部活動、委員会活動などでしか顔を会わせない生徒の日頃の様子を把握することができ、指導に生かすことができるようになった。
- ・気になる生徒の状況を時には1日に何度も確認したい場合があり、そういった際にリアルタイムで情報を見られるようになり利便性が高まった。
- ・紙に印刷されたものは適切な処分（シュレッダー処理）を要するため、パソコンの画面を確認して要件を済ませられる場合には特に紙資源や処理時間の無駄が減った。

【指導方法についての紹介、意見交換をする機会の獲得】

- ・平成24年2月20日に県下の高等学校と近隣中学校、県教育委員会や県教育センターへ参加を呼びかけ、研究発表会を開催した。約70名の参加がある中でこの取り組みを紹介し、貴重な意見交換を行うことができた。また、これを機会にスタンドアロンで動くAccessのシステムを希望される学校へ配布し、段階的指導の導入に向けた一助とできた。

4. 2. 本研究を通して挙げた課題

次に、今回の研究を通し今後の課題として挙げた点は以下の通りである。

【システム改善要望】

- ・時系列で詳細な指導履歴が見られるが、時間の間隔と指導の間隔を掴みにくく「いつ急に指導が増えたのか」や「頑張って回復に励んだ時期」などが瞬時に把握しにくい。

- ・生徒の情報を得る場合に、出席番号のみで抽出させるのは大変である（生徒の出席番号は調べなければすぐには分からないため）。

#### 【指導の運用の在り方】

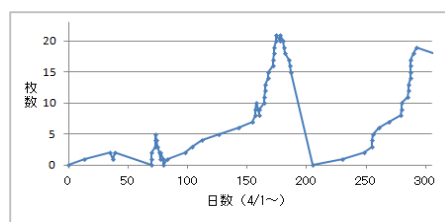
- ・ネットワーク化が完了する以前に、毎朝、紙媒体でクラスの指導状況を受け取っていた担任の先生方は、ネットワーク化後は能動的に情報を得なければ見過ごしてしまうこともあり、業務多忙な担任の先生の中には、情報閲覧の機会が減った先生もいた。

#### 4. 3. 本研究の課題について現在の対応

これらの課題を踏まえ、現在取り組んでいる、又は対応が完了した点は以下の通りである。

- ・グラフを用いて指導時期や間隔を把握しやすくするためシステム改善を進めている。

右の図は、システム改善策として検討中の指導状況の視覚化に向けたイメージ図である。このように、文字情報のみでなく横軸に時間軸を設けてグラフ化することによって、急に指導を多く受けたり、頑張っただけで回復に励んだりした様子が瞬時に分かりやすくなる。



- ・生徒情報検索の際には、生徒の出席番号が検索できるように追加機能を作成中である。
- ・担任の先生方を中心に、各先生方のシステム利用状況を閲覧できるようにし（機能追加は完了済み）、生徒状況を把握できていないと想定される場合に担任の先生方に声掛けを実施するよう声掛けルールを生徒部内で検討している。

#### 5. おわりに

本研究において段階的指導が成果を挙げた理由として、以下のような点が挙げられる。

- ・管理職をはじめとした強いリーダーシップによる指導
- ・23枚で特別指導という1枚の指導票の軽さを生かし、ためらわずに指導し履歴を蓄積
- ・指導票発行者、担任、主任・主事、管理職といった多くの段階指導で多様な指導を受けることにより、多くの視点から様々な振り返りの訓話を実施
- ・保護者召還を通して保護者と一体となった指導の実施
- ・絶対に曖昧にしないという生徒部の姿勢、指導完了までの徹底
- ・毎日の回復作業実施を通じた自己管理能力の育成
- ・指導履歴の蓄積による、課題の確実な把握
- ・情報共有化による全職員での生徒状況把握、特別支援室との連携
- ・ICTを活用した指導回復状況の管理により事務処理負担の軽減

段階的指導は着実に成果を挙げている反面、指導に対して教師の強い意識を維持することや、可能な限り事務処理の負担を軽減するICTシステムを活用することが継続して指導を成功させるために肝要である。また、今回、システムのネットワーク化まで実施にこぎつけ、教師全員での指導体制をより強固なものへと移行したことから、この活用方法について多くの職員の意見を汲み上げながら、システムや生徒部の運用ルールの改善につなげ、学校全体でのブレのな

い指導体制をより強固にしたいと考える。

6. 参考文献

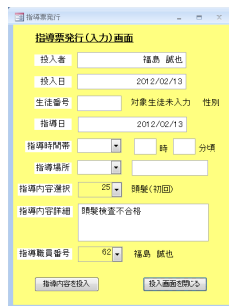
- ・規範意識をはぐくむ生徒指導体制－小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ－  
国立教育政策研究所生徒指導研究センター著 東洋館出版社
- ・「生徒指導体制の在り方についての調査研究」報告書－規範意識の醸成を目指して－  
国立教育政策研究所生徒指導研究センター著
- ・ゼロトレランス 規範意識をどう育てるか 加藤十八編著 学事出版
- ・ゼロトレランスからノーイクスキューズへ 加藤十八編著 学事出版
- ・実践 Access アップサイジング 株式会社インフォース著 翔泳社

7. 資料（システム概要）

Access2007にて製作したシステムの画面イメージは以下の通りである。



ログイン画面



指導票入力画面



クラス毎の集計レポート出力画面

Access2007にて製作したシステムの出カ物（レポート）イメージは以下の通りである。

指導/回復状況		生徒 一男(1101)		2011/04/01～2012/03/21							
生徒氏名	性別	職員氏名	指導日	指導/回復内容	投入日	備考その他	指導/回復日	回復数	累積	復帰	完了
1101 生徒 一男	男	教師 一男	2011/04/25	靴下(色)	04/25		指導	1	1		
1101 生徒 一男	男	教師 次郎	2011/05/11	忘れ物	05/12		指導	1	2		
1101 生徒 一男	男	システム	2011/06/11	30日間指導無し	06/13	30日間無指導による自動	回復	2	2	0	
1101 生徒 一男	男	教師 三郎	2011/10/25	無断遅刻(バイク通)	10/25		指導	2	1		
1101 生徒 一男	男	システム	2011/11/25	30日間指導無し	11/25	30日間無指導による自動	回復	3	1	0	
1101 生徒 一男	男	教師 四郎	2011/12/09	無断遅刻(バイク通)	12/09		指導	3	1		
1101 生徒 一男	男	教師 三郎	2011/12/12	無断遅刻(バイク通)	12/12		指導	3	2		

Access2007にて製作したシステムの主な機能は以下の通りである。

情報閲覧系	機能	説明	
○	クラス別指導・回復状況	クラス毎の生徒の指導履歴状況を一覧	
○	生徒詳細検索	生徒個人の指導履歴状況を一覧	
○	クラス生徒別発行枚数	クラス内の生徒別の発行枚数及び回復数を閲覧	
○	各段階指導状況	各段階指導対象生徒の指導完了状況を一覧	
○	段階指導直前生徒検索	各段階指導が目前に迫った累積数の生徒を一覧	
○	指導票発行の日別推移	指導票発行枚数と回復実施数の日毎の推移を一覧	
○	学科別集計印刷	指定した学科所属生徒の指導履歴状況を一覧	
○	指導票毎の発行状況	指導内容や回復内容毎の発行枚数を計数し閲覧	
○	教員別発行状況	各先生の指導票発行詳細、並びに全教員の指導票発行枚数を閲覧	
新系 情報更	○	指導票発行(入力)	発行された指導票の入力を実施
	○	指導票の微修正	投入済みの指導票情報の簡易な情報変更を実施
	○	指導票の取り消し	投入済みの指導票情報の取り消し処理を実施
	○	累積の回復処理	愛校作業実施時や特別指導時の回復情報を入力

○朝掃除予約完了システム	毎日の愛校作業の予約から回復処理までを容易に実施するための機能
○段階的指導の完了処理	各段階指導担当者による指導の完了情報を入力

※ ◎印のついた機能は、ネットワーク化によって全教員に提供した機能

システムの詳細なハードウェア仕様、アプリケーション等は以下の通りである。

- ・サーバ OS : Microsoft Windows Server 2008 R2 SP1 5CAL + 追加 5CAL  
(CPU: Intel Xeon 3.10GHz, MEMORY: 4GB, HDD: 500GB × 2 (RAID1), ラックマウントタイプ)
- ・無停電電源装置 : APC Smart-UPS750 (制御ソフト : PowerChute Business Edition)
- ・データベースサーバアプリケーションソフト : SQL Server 2008 R2 SP1 Express Edition
- ・クライアント OS : Microsoft Windows 7 Professional
- ・クライアントアプリケーション : Microsoft Office Access 2007